



広島修道大学

Hiroshima Shudo University

2021
No. 15

Faculty Development

NEWS LETTER

Staff Development

カラフル

学長 三 上 貴 教

FD・SD研修会は、今年度も画面越しの企画となりました。2021年8月3日には「再考：世界を学び、地域で生きる」をテーマに、本学OBの株式会社マリモホールディングス社長、深川真氏から、グローバルに展開する企業の活力の源泉を感じ取れるお話を聴くことができました。本学からはジェームズ国際センター長、矢野ひろみらセンター長から、テーマの再考にふさわしい、現在の活動についての紹介がありました。

11月17日の第2回は現代の世界的な課題を果敢に取り上げることとなりました。学外から「LGBTとアライのための法律家ネットワーク」の弁護士の皆さんによる講演がメインでした。ニューズレター巻頭では以下に、こちらの話題について述べることにします。

大晦日恒例の番組もLGBTの動きと無関係ではありませんでした。視聴率は史上最低とのことでしたが、俳優の大泉洋、川口春奈と和久田麻由子アナウンサーを司会に「カラフル」というテーマで行われました。司会者をキャプテンとして、女性は紅、男性は白に与するスタイルではなく、双方を応援する設定でした。その一方で、男女に分かれて優劣を競う対抗戦は存続していました。結果は紅組の勝利でした。これまで白が勝ちすぎてきた印象もあって、ジャニーズ系のアイドルへの過剰な応援がなせる業かと思っていたのも昔の話で、このところは女性の紅組が勝ちすぎているので、と少しだけ気に掛かってしまいました。これもあれも、男女の固定観念で捉えようとする旧弊です。

カラフルに関連した社会的な話題をもう一つ、SDGsの17色を思い描いてください。これは疑いなくカラフル

です。毎年、東洋大学が行っている現代学生百人一首の入選作に、「十七色のSDGsが叫ばれる僕らの日常変わらないけど」（東京学館新潟高等学校1年、五十嵐天邑）という句がありました。この色には2030年までに達成すべき目標が示されています。SDGsの17色が表象し、重視しているのは世界の多様性です。

多様性を認めよう、とスローガンに掲げるのは容易です。他方ひねくれ者の私など、多様性を認めて社会はどう変わるのか、などと考えてしまいます。社会は個人からなっています。自由な言動を重視する民主主義社会では、他人に迷惑をかけない限りそれは尊重されます。“個”として生きる大切さを説いた詩人の茨木のり子が人気だと言います。「自分の感受性くらい 自分で守れ ばかものよ」。権威主義が幅を利かす世界はごめんです。同時に、多様性という価値を社会や個人に押し付けることも、それこそ多様性の否定です。

あれこれ思案していても埒は開かない。まずは学ぶことでしょう。今回は、権利義務関係を規定する法律的議論を聴くことができました。自説に凝り固まって、社会的通念から大きくはずれてしまっただけの損害賠償の憂き目に遭うかも知れません。現在の課題について必要なことを学習し、日々の活動に活かす。今回のFD・SD研修がそうした機会になっていれば幸いです。

余談も一つ。昨年11月、ピククルボールという新しいスポーツに興味をもって、どこかで体験させてもらえないかと探していたところ、姫路市のサークルがOKしてくれました。そのチーム名が「カラフル」で、参加条件はただ一つ、服装はできるだけカラフルに、とありました。フラワーフェスティバルの時に受け取った派手なTシャツを着て参加しました。このチーム名は紅白のような意味合いを込めた命名ではありませんでした。それでもこの「カラフル」今や私の中のバズワードです。

2021年度 第1回 FD・SD 研修会（修道フォーラム）

2023 World Stage Program

国際センター長 ジェイムズ ダニエル

2021年8月3日の修道力フォーラムは、「再考：世界を学び、地域で生きる」をテーマに開催されました。

現在計画中である新しい留学制度「ワールド・ステージ・プログラム（WSP）」について、学内の多くの教職員の方々の専門知識や経験、知恵をお借りしつつ、プログラムの基本的な枠組みを包括的に紹介する機会を得ました。

世界的なパンデミックのさなかに、留学の基本的な柱の一つである海外渡航がほとんど不可能な状況で、留学プログラムを再設計・再構築することの妥当性に疑問を持たれる方ももちろんいらっしゃるかもしれません。

しかし、WSPを単に海外留学する学生を増やすことだけに注力するプログラムとして片付ける

ことは、このプログラムの2つの主要な考え方である「複言語・複文化主義」に対する誤解につながると思います。

WSPが掲げる目的の一つは、その言語を用いる文化や話者のアイデンティティに敬意と共感を示しながら、異なる言語に対するより深い理解、感謝、使用能力を育成することです。

「子供を育てるには村が必要」という言葉が示すように、学生の教育のためには、国内外を問わず大学全体とそれを取り巻くコミュニティが必要であり、それこそが、グローバル化・国際化の中で刻々と変化する「Beyond COVID-19」が生み出した「ニューノーマル」の中で、教職員が一丸となって立ち向かうべき課題なのではないかと考えています。

広島修道大学の知を地域で活かす仕組みづくり

ひろしま未来協創センター長 矢野 泉

2006年の教育基本法や学校教育法改正において、大学の使命の1つとして社会貢献が法的にも位置づけられた。本学においては商業経済研究所（1976年設置）以来、教育・研究成果の地域への還元を大学全体として取り組んできており、総合研究所、学術交流センターを経て、現在のひろしま未来協創センターの多様な事業につながっている。ひろしま未来協創センターは研究支援事業と社会貢献支援事業を主に行っているが、社会貢献支援事業は、①学生による地域貢献活動を支援する事業、②生涯学習事業、③研究成果を活かした社会貢献事業の3つに大別される。FD・SD研修会では、このうち③について紹介した。

現在、教員の研究成果を活かした社会貢献事業の窓口は、2014年から設けられているひろみらシンクタンクとなっている。教員の皆様に任意で登録して

いただき、学外からの調査・研究相談や講演や研修会の講師依頼に対応していく仕組みである。2020年度時点で50名の教員の登録がある。2020年度からシンクタンク事業拡充のための見直しを行い、2021年度から学外の方が本学の研究シーズによりアプローチしやすい情報提供をホームページで行っており、さらに多くの教員の登録を期待している。

また、2021年度から開始したひろしま地域協創スタジオは、連携協定を結んだ自治体や団体の方々と共に地域課題の解決に向けて議論し実働していく取組を大学が支援するものである。新型コロナの影響もあり2021年度は活動を行えなかったが、実際の地域課題の解決や地域における本学のプレゼンス向上に本学教員の専門的知見が貢献する取り組みとして、今後も力を入れていきたい。

各種研修会参加報告

私大連「FD 推進ワークショップ（新任専任教員向け）」参加報告 商学部 徐 康 勲

私は、去年開催された私大連のFD 推進ワークショップに参加することで、大学教員としての共通の悩みとその解決策、自分自身の授業の強みと弱み、今後目指すべき授業等について真剣に考えることになって良かったと思う。

まず、ワークショップで他の大学の先生たちと話すことで、大学教員の悩みの内容として、授業フィードバックの仕方から、成績評価、コロナ禍による教員レベルの対応、オンデマンド授業の動画制作方法まで、具体的で多様な悩みが存在していることがわかった。他の先生方の話を聞いて、自分自身に限る悩みではなかったことでまず少し安心した。また、様々な悩みではあるが、ある程度パターン化されており、それぞれのケースごとに解決策・知恵が既に出ているので、これからより先輩の先生方といろいろ相談すべきだと思った。

ワークショップで行われたマイクロティーチングを通じて私の授業の長所と短所についてはっきり分かったことも収穫である。私の授業はフレンドリーではあるが、相手をせかせるような言い癖があることがわかった。

今回のワークショップを通じて、今後とも持続的に成長できる授業、学習者にフレンドリーでありながら、今の時代が要求する重要な知識を提供する、学習者の知的な成長を刺激できる授業を目指していきたいと思った。

私大連「FD 推進ワークショップ（新任専任教員向け）」参加報告 法学部 宮 内 彩 希

今年度8月に実施されたFD 推進ワークショップに参加したのでここで簡略に報告させていただきたい。今年度はオンライン開催ということもあり、プログラムの大半の時間は、少人数によるインタラクティブな活動に充てられた。

グループディスカッションでは、所属大学や専門分野が異なる他の参加者の方々と、参加のきっかけや日頃の悩みなどについて非常に「ざっくばらん」に語り合うことができた。特に、オンライン授業の進行方法、出欠確認方法、小テスト実施方法など、具体的な取り組みについてそれぞれの経験や意見を自由に述べた。

本ワークショップのメインと言ってもいい模擬授業の時間には、事前に準備した15分の模擬授業をグループメンバーに見てもらい、コメントをもらったり意見交換を行う活動をした。自身の授業について他の教員から批評を請うことが貴重な機会であったし、自分では気づきにくい注意点や授業方法のアイデアなども頂くことができた。

本ワークショップの参加を通して、教育に対する姿勢、学生への向き合い方に関して、教員が共に悩んでいくべき重要な課題であることを切実に感じた。大学教育は、学生の知識教養の向上を含め、様々な成長をもたらす機会にしなければならないと思う。一つ一つの講義はとても些細な内容かもしれないが、講義の積み重ねが、学生の成長に少しでも役に立つよう、自身も他の方々の意見や授業スタイルを参考にしつつ、全力で悩み、改善を重ねていこうと改めて思った次第である。

私大連「FD 推進ワークショップ（新任専任教員向け）」参加報告 健康科学部 黒 飛 知 香

2021年8月5日に開催されたFD 推進ワークショップに参加しました。今回は、コロナウイルスの影響もあり、初めてのオンライン開催となりました。私は、大学教員として着任してまだ年数も短く、授業の準備・実施や学生対応を行う中で色々と不安もあったため、今回の参加はとても有意義で多くのことを学ばせていただきました。

ワークショップでは、大学も分野も異なる他大学の先生方とのグループディスカッションがあり、皆さんも似た悩みを持っていることが分かりました。具体的には、国家試験取得への取り組み、学生のレベル差が大きい、理系科目未履修学生への教育などの課題が上がりました。さらに、With コロナといった背景から、オンライン授業の双方向性および理解度の確認については、実際に取り組んでいる内容や工夫、提案なども大変参考になりました。

最後に、今回のワークショップで「学生の回答にはオウム返し、複数学生へ聞く、たとえ間違えていてもポジティブな対応が重要である」という言葉がとても印象に残っています。今回のワークショップで学んだことを意識して、今後の教育活動に生かしていきたいと思っています。

私大連「FD 推進ワークショップ（新任専任教員向け）」参加報告 健康科学部 木 本 晶 子

今年度初めて、FD 推進ワークショップに参加いたしました。昨年まで助手として他大学で勤務しており、自身で授業をするのは4月からが初めてとなります。コロナ渦ということもあり、オンデマンドを取り入れながらの手探りの状況でした。今回、専門の全く異なる先生方と互いに模擬授業を行い、評価していただき、良かった点、またこうするともっとよくなるのでは。といったアドバイスをたくさんいただきました。私自身も参加者の先生方の授業のやり方やパワーポイントの作成方法、話し方など参考になる点が多く、今後の授業に生かしていく所存です。学生の学びの姿勢もだんだん変わりつつあること、やる気のある学生、ない学生どこに照準を合わせて授業展開すればよいのかなどについても先生方のご意見が参考になりました。コロナ渦において、教員・学生ともに手探りで大変であったこの2年間ですが、完全対面授業で以前のような大学運営に戻ったとき、学生だけではなく私たち教員も進化を遂げていなければならないという先生方のお言葉が身に沁みました。学生が少しでも興味を持ち、授業がおもしろいと思えるように日々努力していこうと決意を新たにすることができました。

教育力アップセミナー参加報告

学生課 丸 山 沙 紀

2021年8月27日（金）に行われた第11回教育力アップセミナーに参加した。昨年度、新型コロナウイルス感染症の影響で実施が見送られたため、今年度は昨年度の参加対象者と合同での実施となった。本セミナーは、大学での教育活動における課題を検証することと、教職員で互いの問題を共有しながら改善のための方法を探ることをねらいとしている。

セミナーの後半では、グループワークを通して本学における教育課題とその解決策について議論がなされた。本学の教育課題について、学生のモチベーションの引き出し方や教職員と学生の距離感の測り方、各人の取り組みを大学内外の方に知ってもらうための周知の工夫など様々な課題が提起された。それらについて、アクティブラーニングの手法の1つである「ワールドカフェ」を用いることによって、参加者同士でグループの垣根を越えて活発な意見交換がなされた。

立場や部局の違いはあっても、それぞれが似たような課題を抱え、試行錯誤していることが分かり、共感しながら課題解決に向けての議論が出来たり、普段あまり関わることのない方々と交流することが出来たりして、とても有意義な時間となった。

私学スタッフセミナー参加報告

財務課 櫻 井 祐 花

2021年12月15日から17日にかけて開催された日本私立学校振興・共済事業団主催の私学スタッフセミナーに参加した。本セミナーには、東京以西の20名の若手・中堅職員が参加していた。1日目は、私立大学を取り巻く状況などについての講演を聞いた。2日目はグループワークにて、架空法人の第2期中長期経営計画策定と発表の準備をし、3日目にはグループワークで策定した計画を発表し、私学事業団職員から講評いただいた。

3日間のスケジュールの中で最も濃い時間を過ごした2日目のグループワークでは、事前課題で取り組んだSWOT分析をグループ内で共有し、さらに1日目の講演で学んだ財務分析を実施する等、段階を踏みながら中長期経営計画の策定に取り組んだ。全員が未経験である中長期経営計画策定という難題を、グループのメンバーそれぞれの経験と積極的な意見交換で乗り切り、グループ内における他大学の職員同士の絆を感じることができた。

本セミナーは3日間という短い期間に多くの学びが凝縮されており、大変有意義な時間を過ごすことができた。今回学んだことを今後の業務において活かせるよう励むとともに、この機会に繋がることのできた他大学の職員との縁を大切にしていきたい。



広島修道大学
Faculty Development
NEWS LETTER
Staff Development

発行日 2022年3月7日
発行者 広島修道大学
〒731-3195 広島市安佐南区大塚東1-1-1
TEL. (082) 830-1105
ホームページ <http://www.shudo-u.ac.jp>
E-mail jinji@js.shudo-u.ac.jp